



蜘蛛守宮怪しき家の警備員

山下正純

蜘蛛は益虫なんだよね。守宮も玄関先の虫を退治してくれる。だから、確かに警備員なんだが、夜間の仕事で、たしかに怪しげな存在である。



ひらひらチョンきくきくチョンチョン盆踊

椋本望生

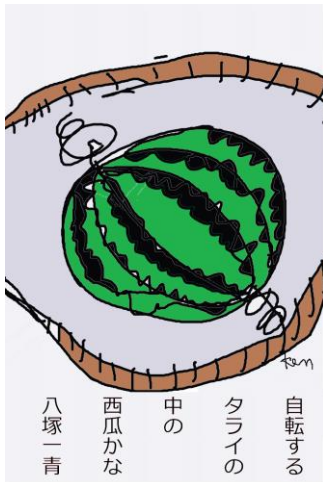
なるほど、声に出してみるとそのまま踊れるような気がする。こういう自在な表現こそ滑稽句。「すらすら五ちよんちよん七にさらりと五」。



絵日記にたたみこまれる蝉の声

森岡香代子

音声を記録するのに「たたみこまれる」の表現が面白い。「絵日記にしみこませたる蝉の声」では、ちょっと芭蕉のパクリになるからね。



自転するタイヤの中の西瓜かな

八塚一青

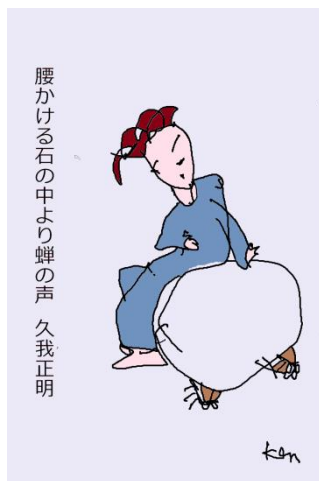
ちよんとつつけばグルグル回転する西瓜。そういえば西瓜は地球に似ている。タイヤは小宇宙だね。「地球も自転タイヤの西瓜見習って」。



絵日記の主役となりし雲の峰

堀川明子

雲の峰は存在感がある。圧倒的な大きさが印象に残ったのだろう。ただ、絵にするのはなかなか難しい。うまく描けたらいいね。



腰かける石の中より蟬の声

久我正明

芭蕉の「閑かさや岩にしみ入る蟬の声」が、三百年余り後にこんな展開を見せるとは翁も吃驚だろう。発想の豊かさが楽しい句となった。